

平成 27 年度 JICA 研修 コミュニティ防災(A)

- JICA Community Based Disaster Risk Management(A) -FY2015



研修最終日、閉講式にて



研 修 期 間：平成 27 年 6 月 22 日～8 月 1 日 (6 週間)

研 修 場 所：神戸市/岩手県/宮城県/東京都/徳島県

研 修 内 容：参加研修員の自国のコミュニティにおける、自然災害に対する防災活動推進方法の習得に関する講義/視察

参加研修員：17ヶ国 23名 (インド1、チリ2、フィジー1、キリバス1、マケドニア1、東ティモール1、カメルーン2、セントルシア1、ジャマイカ1、モルドバ1、カザフスタン3、グレナダ1、ブラジル2、フィリピン2、ベネズエラ1、アルメニア1、パラオ1)

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、神戸市消防局の協力の下、「コミュニティ防災(A)」研修を実施しました。自国で住民主体の防災活動を推進する立場にある行政官などを17ヶ国から迎え、6週間の研修を行いました。

本研修は、自然災害に対する防災の重要性、中でも住民主体の自主防災組織を通じた地域コミュニティの防災力向上について学ぶ事を目的としています。研修では、神戸における取組みの代表的な例として「防災福祉コミュニティ¹」を取り上げています。防災福祉コミュニティでは、メンバーによる日頃の地域活動で培われた団結力や訓練などで学んだ防災知識を災害時に活用できることを目指しています。災害緊急時には行政による「公助」を待つのではなく、自らの命を守る「自助」、住民が互いに助け合いながら自分達の地域の安全を守るという「共助」が何よりも重要となるからです。

研修員は、「防災福祉コミュニティ」を中心に、神戸市が取り組む市民向けの防災に関する普及の取組みを学びました。また、市外では、2011年に東日本大震災で津波の被害を受けた岩手県・宮城県と、今後発生するとされている東海、東南海、南海地震の津波に備えた取組みを行う徳島県を訪問しました。そして研修最終日には、講義・視察を通じて考案した自国のコミュニティ防災の方法、市民への普及促進策についての行動計画の発表を行いました。

¹：防災福祉コミュニティは阪神・淡路大震災の教訓をもとに生まれた神戸市独自の防災取組みであり、小学校区ごとに結成された自主防災組織です。安全で(防災)安心して(福祉)暮らせるまちづくりをめざし、防災活動や福祉活動に取り組んでいます。防コミ(BOKOMI)と通称されています。



~~~~~研修を振り返って~~~~~



6週間の研修で、研修員たちは神戸・東北・東京・徳島と日本各地を視察し、神戸の阪神・淡路大震災に関する講義や、4年前に発生した東日本大震災に関する講義・視察などをはじめ、防災に関する取り組みについて学びました。また、近い将来必ず起こるといわれている東海・東南海・南海地震（「南海トラフ巨大地震」とも呼ばれています）の被害を最小限に抑えるための神戸市をはじめ、日本各地で行われている様々な防災対策についても学びました。



① 研修初日。講義の最初と最後の挨拶は日本式でお辞儀をするため、みんなで練習



②子供向けの楽しい防災教育を展開されているNPO法人プラスアーツの講義にて。みんなで防災体操を体験

研修の前半は、神戸市内で阪神淡路大震災当時の話を聞いたり、それを契機に誕生した「防コミ」についての話、そして実際に、地域の方がどんな活動をされているのか地域の防コミを伺いました。（写真③④）また、研修員たちには自国でどんな仕事をしているのかを発表してもらい、みんなで共有しました。17か国と様々な国から来ているので、彼らの国の主な災害も日本のように地震、火山ではないところもあり、地すべりなどの土砂災害や豪雨による大洪水などの水害が主な災害である国もあります。そういった災害に対して、消防士や、地域に防災の取り組みを広げる働きをしているなど、いろんな立場で防災に関わっている研修員たちが集まり、講義や視察を受けながら、またその中でお互いを知りながら、日本での防災の取り組みについて興味深く、関心を持って研修が進みました。

講義・視察では、防コミが初めて海外インドネシアで2010年に展開された例として、その際に関わられたガジャマダ大学の教授から、防コミをつくる際にどのように現地の関係者と取り組まれて、防コミが誕生したのかについてなど、お話を伺いました。



③魚崎町防災福祉コミュニティの取り組みを視察



④長田区若松地区で若鷹市民消火隊・ひだまり公園市民消火隊による放水訓練に参加

研修中盤では、4年前に発生した東日本大震災についてお話を聞くため、岩手県と宮城県を訪問し、それぞれ市役所の方や住民の方に、実際の場所を見せていただきながら当時のお話を伺ったり、現在どんな復興の取り組みがされているのかなどを教えてくださいました。以下写真⑤は、

岩手県宮古市田老地区を訪問した際に、お話を伺った際のものです。ここには10mの防潮堤がありましたが、津波の被害を受け、また防潮堤の周辺の住宅は流されました。実際の場所をみることでいかに津波が大きかったを実感しました。またその他の東北視察地では、岩手県宮古市役所の方に市の被害概要を伺ったり、宮城県南三陸町の住民の方に当時の様子を伺いました。

研修終盤では、今後発生するとされている東海、東南海、南海地震の津波に備えた取り組みを行う徳島県を訪問し、徳島県の、特に南部地域の、防災・減災の取組について伺いました。9千人超の犠牲者を想定している徳島県南部地域では、災害に備えるため、避難訓練に力を入れられており小学生児童にGPSを配布して訓練したり、高齢者には「避難路健康ウォーキング」という形で、避難経路を把握してもらう為の訓練を実施されているとのこと。また、住民の方々が自ら避難時に使用する避難路を整備されたということ伺い、住民の方々の防災意識の高さを感じました。

そして、研修最終日には、各自（各国）が作成した、日本で学んだことを自国でどのように活用し、実践していくかについての行動計画（アクションプラン）を発表してくれました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員がこの研修で得た知識・経験を今後、各々の国におけるコミュニティ防災推進活動に活かし、一人でも多くの人々が災害から守られることを期待しています。



⑤岩手県宮古市田老地区を視察。東日本大震災による津波で元々は沢山あった家などもすべて流された



⑥徳島県美波町由岐地区にて。地区内の所々に設置されている避難階段を実際に上りました

研修担当：事業課 丹後 千里

委託機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

協力機関：神戸市消防局予防部予防課

講義/視察先：

気象庁、ガジャマダ大学(インドネシア)/ひょうご震災記念21世紀研究機構/宮古市役所/(社)南三陸町観光協会/(社)宮古観光協会/徳島県南部総合県民局/徳島大学 地域創生センター/徳島県由岐湾内3地区自主防災会/市民防災総合センター/神戸市消防局/神戸市教育委員会/神戸市危機管理室/(公財)神戸都市問題研究所/魚崎町災福祉コミュニティ/若鷹市民消防隊/ひだまり公園市民消防隊/高羽防災福祉協議会/灘消防署/アジア防災センター/人と防災未来センター/SEEDS Asia/NPO 法人プラス・アーツ/FM わいわい/北淡震災記念公園/地すべり資料館(仁川百合野町)/ムラのミライ/カナディアン・アカデミー/神戸市水道局/

【順不同、敬称略】



～研修員の声『神戸を訪れて(要約)』～Participant's Voice『VISIT TO KOBE』～



国名：カザフスタン
 名前：Mr. Aldiyar ISSENOV
 所属：内務省緊急事態委員会
 情報分析部 上級専門家

Konnichiwa!

I like Japan and love this city, Kobe!! I often heard before this name and Hyogo program and now I'm here. I was really impressed by Kobe-city and city's citizens: how, less than only 20 years after huge Great Hanshin Awaji earthquake, Kobe was rebuilt and recovered and became one of the most modern and beautiful cities in Japan!! Every morning I can see in my window beautiful picture of Kobe-port, ships and sea... From the back window on my floor I can see the Maya and Rokko mountains... These were my first pictures here! And now I feel like know each Kobe small street!

Kobe - wonderful city, I always feel myself in safety! I was wondered by City's very-very kind people, developed roads and infrastructure and may be the best example of Japanese service - high quality service, deep respect of everybody, everywhere, best mix of eastern traditions and hospitality with modern technologies and all of these based on high punctuality and professional level, high responsibility of Japanese people. It's fantastic!! And of course, I'll never forget Kobe-beef!!

The acquaintance with Kobe became possible thank to international activity of Government of Japan, Kobe-city Mayor, JICA and KIC. The knowledge I've got here in Kobe, is very important and useful for my country, I hope I will be able to implement it in Kazakhstan. Firstly, I mean wonderful Japanese experience of BOKOMI activity in Disasters risks reduction and

management.

I'm very-very happy and honored to visit this city and would like to say big thank you to all people who help me to enjoy my time in Japan and in its magic city!! I hope see You, Kobe, next time!!

Arigato gozaimasu and Sayonara!!

こんにちは！

私は日本、そして神戸が好きです！来日する前から日本のこと、この研修のことは聞いたことがありました。神戸、神戸市民の方々に強い印象を受けました。というのは、阪神淡路大震災からわずか20年で現代的で美しい都市のひとつとなるまで復興を遂げているからです。毎朝起きると、窓からはきれいな神戸港が見え、船や海が見えます。また反対側の窓からは摩耶山や六甲山が見えます。私が来日して最初に撮った写真はこの窓からの風景です。そして今では、神戸の隅々まで知り尽くしたような気分です。

神戸はとてもすばらしい都市で、私は毎日安全だなと感じました。神戸のとても親切な人々やきれいに整備された道路、インフラには驚かされました。また、一番印象に残ったことは、日本のサービス精神です。サービス精神がとても高く、どこにいても誰に対しても深い尊敬をもち、東洋の伝統をうまく融合させながら、現代の最新技術も駆使しつつ、おもてなしの心で接してくれる人々が本当に素晴らしいと思いました。また、彼らの時間に対する正確さにはプロ意識、責任感の強さを感じました。とても素晴らしいです！また、食に関しては、もちろん、食べた神戸牛のことは決して忘れません！！

日本政府をはじめとして JICA 関西や神戸市の方々には本当に感謝しています。神戸で得た知識は、とても重要で、自国でも役に立つ知識です。自国に帰り、役立てられるように取り組みたいと思います。神戸に来られてとてもとてもうれしく、また光栄で、出会った方々、この滞在のサポートをしてくれた方々に本当にお世話になり、感謝しています。また神戸に来れることを願ってます。ありがとうございました、さようなら！！

(以上)



国名：アルメニア共和国
名前：Ms. Evelina KHACHATRYAN
所属：地域統制緊急事態省
ゲガルクニク地域救急部門
セバン町消防救命署 司令官

This 40 days that I spent in Japan: in JICA Kansai within the scope of Community Based Disaster Risk Management (A)" course were extremely good, beautiful and unforgettable. It was one of the best periods of time in my life. When I will be back home, a new life cycle will begin for me: my life before the visit to Japan and after visiting Japan. Especially the time I spent in Kobe will always be held close to my heart. Six weeks are away, which for most of us does not seem possible. As we look back at these past short 40 days but fulfilling days, there are a lot of things that we shall never forget when we will be back home. First of all we have acquired very good knowledge about Disaster Risk Management and Disaster Risk Reduction, about needs of self-help and mutual help. This training gave us great opportunities to meet the Japanese community people and community children in different sides of the country, to work with them and to exchange opinions with them, to listen to the stories of those Japanese who faced different disasters that ever occurred in Japan. I am full of emotions after those meetings. We had also great

opportunity to get to know many honest and hospitable Japanese people during our visit in Japan. Each day was enjoyable for me in Japan. From each lecture we had during the training I took knowledge that can be very useful for my professional and personal development.

After this training I will start a new life with new ideologies and new world outlook. Goodbye beautiful JAPAN and all the best to all of YOUR kind INHABITANTS.

私がこの研修「コミュニティ防災（A）」で日本で過ごした40日はとてもすばらしく、忘れられないものになりました。私の人生の中でも指折りの充実した時間でした。自国へ帰ると来日する前とはまた違う新しい生活が始まります。特に神戸で過ごした時間はいつも心に残ることでしょう。研修が始まる前は、6週間も自国を離れての生活はつらくなるだろうと思いましたが、終わってみると、40日間は短く、有意義な日々でした。そしていつまでも心に残る思い出ばかりです。なんととってもこの研修に参加した研修員たちは自助、共助といったとても素晴らしい防災に関する知識を得ました。また、この研修を通し地域住民の方々と会うことができ、防災訓練などで一緒に活動し、意見交換し、彼らから災害当時のお話を聞かせて頂くという貴重な機会を得ました。災害当時のお話は感情に訴えるものがありました。私たち研修員は今回の日本滞在でたくさんの誠実でおもてなしの心を持った人々に出会うことができ、毎日が楽しかったです。研修の各講義では、私自身の仕事、そして私自身の成長の為にもなる知識を得ました。

研修が終わり、私にとってはこれから新たな価値観とともに新しい生活が始まります。

さようなら、美しい日本。そしてすべての日本の方々の今後のさらなるご活躍を願っています。

(以上)